



青山神明遺跡

発掘だより 13号

令和 7年 12月 22日



◆ 25F 区の調査成果

青山神明遺跡 25F 区は神明公園の西側に位置します。令和 7 年 5 月から 7 月まで調査を実施し、様々な時代の溝 8 条と鎌倉時代以降の柱穴多数、井戸 2 基が見つかりました。

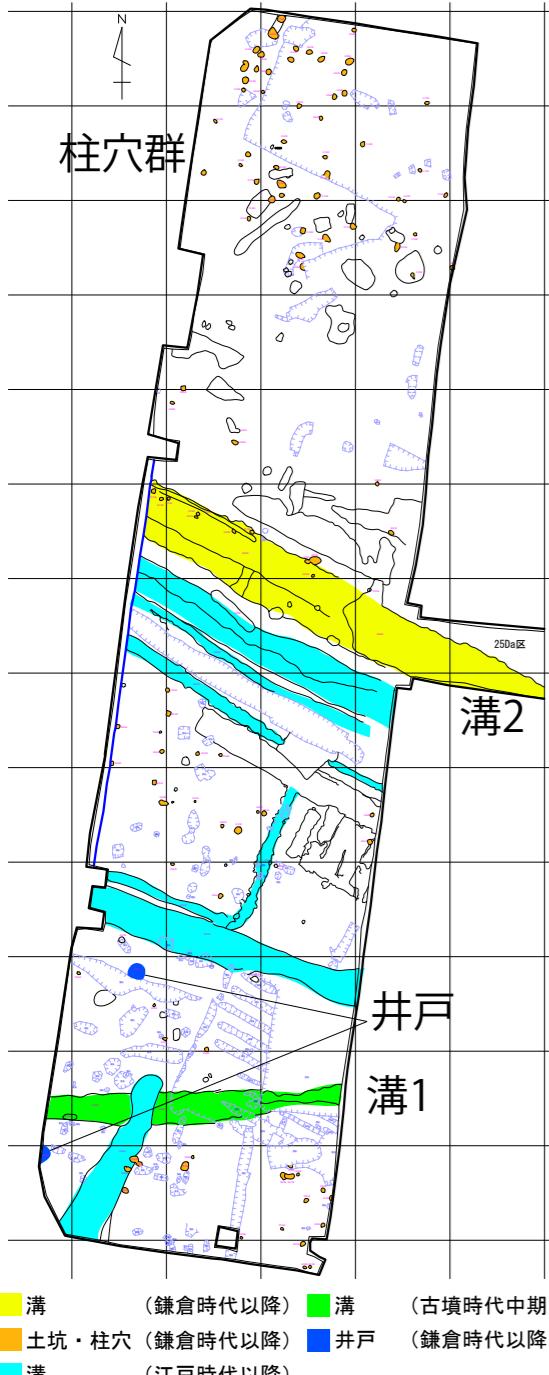
溝は、溝 1 が古墳時代中期(約 1600 年前)頃のもので、幅 1.5m、深さが 0.5m あり東西方向に伸びています。25F 区の西側で、以前調査を行った 23E 区でも東西方向にまっすぐ伸びる溝が見つかっており、今回の溝 1 と連続します。地形の高低に沿った向きではないため、境界の区画などの目的を持った溝と考えられます。

溝 2 は検出された幅が 2m、深さ 0.8m ほどの溝で、西北西から東南東に伸びていました。最初に掘られたのは鎌倉時代から室町時代頃と考えられますが、それ以降は浅くなりつつも、何度か同じ場所で掘削されたようです。その他の溝は江戸時代以降に掘削されました。そちらは西北西から東南東の方向に伸び、一部はこれに直行する向きを持っています。

柱穴群は、特に調査区の北側に集中して 10 基以上発見されています。0.7m を超える深さのものもあり、3~4 基が列を成します。穴の中から山茶碗の破片が見つかっていることから、鎌倉時代以降に掘られたと思われます。建物よりは塀や柵などが用途として想定されそうです。

井戸は、調査区南端付近で 2 基検出されました。深さは 0.5m 以上あり、今でも水がよく湧いてきます。

これらの遺構が検出された状況からは、この場所はかつては耕作地や集落の周縁部にあたるのではないかと考えられます。



掘削中の溝 1(古墳時代中期)



溝 1 から出土した土器(小型丸底壺)



調査区北端の柱穴群(鎌倉時代以降)



完掘された溝 2(鎌倉時代以降)



井戸(鎌倉時代か?)



25F 区完掘状況